

# 録風

## NO.27

令和4年7月25日発行  
佐沼高等学校同窓会  
在京佐高会



### 「総会」開催決定！

在京佐高会会長 菊地拓朗（高十七回生）

在京佐高会の皆様には、日頃より会の運営にご理解とご支援を賜り感謝申し上げます。

長期にわたるコロナ禍も一時は感染者数が減少傾向になり、一先ずはほっと致しておりますが、七月に入りオミクロン株の感染が急速に拡大し再び社会不安となっております。

この二年間総会開催は皆様の感染予防を優先し見送って参りましたが、今年も三年間のブランクは避けたいとの想いもあり、十月九日（日）に開催致すことに決定しました。勿論皆様の感染予防が第一であることにかわりはありませんが、先の事でもあり九月以降の状況によっては中止も視野に入れての決定です。皆様にはご理解とご協力をお願いいたします。

東京都を中心に関東近県に居住する登米市出身者の方々が構成されます。町人会組織が在ります。私は中田町出身ですので「東京中田会」の町人会の会員です。この「東京中田会」の総会が三年振りに六月四日（土）に開催されました。計画段階では参加人数の減少を心配しておりましたが、当

日五十余名の出席が在りコロナ禍以前に開催された三年前より若干少ないものの盛会に執り行われました。参加された方々のお気持ちは概ね、元気な内に同郷の方々に逢いたかったと云うことのようにでした。

今年の「集まれ！部活動同窓生」は陸上部・バレー部OBの皆様にお声掛けをさせていただきます。両部OBの皆様には是非ご出席をお願いいたします。在京佐高会の中では両部ともOB会の組織は特に無いと聞き及びました。OBの皆様には個人的に連絡を取り合って頂くかまたは個人にてご出席頂き会場内にてOBの方々にお会いされ嬉しい時間をお過ごし頂ければと思います。

本会総会・懇親会は今年も八芳園にて開催いたします。八芳園は東京・白金台の丘陵地を利用して作られ、かつては徳川家三代（家康・秀忠・家光）に仕え（天下のご意見番）と呼ばれた大久保彦左衛門の屋敷跡と云うことです。米国バイデン大統領来日の折り夕食会が催された会場としてテレビ・マスコミ紙上で報道されました。この夕食会の模様は本会懇親会の会場にて映像を使い八芳園よりご案内頂ける事になりました。ご担当からは本会懇親会での料理は皆様にご満足頂けるようより吟味してお待ちいたしますとのことです。

結びに会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。

## 「先達の想いを 後世につなぐ」

佐沼高等学校同窓会会長 氏家良典



在京佐高会の皆様におかれましては、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。あわせて日頃より同窓会

の運営にご理解とご協力を厚く感謝致しております。

一昨年発生した新型コロナウイルスは大分収まってはきましたが、まだ終息には至っておりません。加えてロシアのウ

クライナへの侵攻は世界の安全保障を根底から変え、世界経済へ大きく影響を与えております。ロシアのウクライナへの侵攻が成功すれば、一気に台湾危機が迫り、そのまま日本の危機に繋がってくることは皆さんご存知の通りです。

今こそ日本人が、真剣に国防意識を高める時だと思っています。

さて、一昨年、昨年と本部同窓会総会は二年連続開催を見送ることとなりました。

今年の開催も、今のところまだ未定となっております。

そんな中、一昨年に引き続き昨年も同窓会懇親ゴルフコンペを開催しました。ゴルフ場は安全と考えたのか多くの参加

があり、表彰式こそしませんが、今回も大いに楽しんでまいりました。この事で、同窓会参加予備軍に繋がると幸いです。

去る五月十三日、開校記念講話を在京佐高会のレザニアートクラフトの山下百合子さんにしていただきました。本来なら二年前の二十年に講話していただく予定で、三年越しになりましたが大変あり

がとうございました。例年ですと私はじめ同窓会本部役員も同席して拝聴させて

もらうのですが、卒業式同様遠慮願いますという事で、お話しの内容を知ることができなくて大変残念でした。

昨年、布施孝之先輩（五回生）が亡くなりました。

生前、私にある資料を渡してくれてい

ました。

その資料とは、昭和十九年八月、今の佐沼大橋の下の迫川で、溺れた生徒を助け、自分は力尽きて殉職した島田信夫

先生の殉職三十三年顕彰追悼式の資料と、当時、山本宮城県知事の筆による「師魂」を刻んだ追悼除幕式の資料だったのです。私も祖父や父から聞いていた

「島田精神」のことだとなとすぐ理解しました。

布施先輩が私に機会があったならば、後世の卒業生に伝えてほしかったのではと思ひ、記すことにしました。

結びに、本年こそ在京佐高会の開催と会員皆様のご健勝を祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

## 「いあいさつ」

佐沼高等学校校長 狩野秀明



在京佐高会の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動の発展のためにご支援ご協力を賜り厚く感

謝申し上げます。昨年度に校長として赴任いたしました本校卒業の高三十四回生、狩野（かの）と申します。微力ではあり

ますが、引き続き、本校発展のために力の限り尽くして参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大が、相変

わらず全国的に続いており、様々な制限や制約の多い中ではありますが、感染対策を徹底しながら学びの保障を図り、生徒と共に「佐高で咲こう」を合い言葉に、教職員一丸となって教育活動を進めているところ です。

この三月の卒業生（全日制）の進路先ですが、進学では山形大学医学部医学科一名及び東北大学三名などを含む国立

大学に三十九名が合格し、私立大学に百五十一名、看護医療系などの専門学校に四十六名、登米市役所六名など公務員

就職十一名、民間就職六名などの進路実績でした。

今年度の新入生は全日制二百二十一名・定時制四名が入学し、在籍生徒数は、全日制十八クラス六百八十九名、定時制

四クラス二十二名、総計七百一十一名となり、「献身・窮理・力行の三徳を至誠をもって貫く」の校訓のもと、文武両道に精一杯励み、明治三十五年の創立からちょうど百二十年目を迎えるに相応しく、意欲的に高校生活を送っております。

施設面では、昨年、約五十年ぶりに第一体育館が新しく建て替えられました。また、昭和四十四年から使われた校舎の老朽化により、新しい校舎の立て替え工

事に伴い、今年七月にプレハブの仮設校舎が完成予定（写真参照）で、夏休みに引越しを行います。その後、現在の校舎が解体され、令和七年春の新校舎完成に向けて、建設工事が進められることになって

います。

今後コロナ禍ではありますが、同



窓生の皆様のお力をお借りしながら、二十一世紀の国際社会を生き抜くことができる英知と健全な心身を持った徳性の高い人物を、教職員一丸となって育成し

て参りますので、引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、在京佐高会皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

## 人物紹介

船坂朗子（旧姓佐藤20回生）

### カナダ移民のパイオニア

#### 「佐藤惣右衛門物語」を出版。

この本は兄妹たちと纏めた一種のファミリーヒストリーであり、明治時代飢饉や冷害に苦しむ登米周辺の人々を救うためにカナダに渡り送金を続けた郷土の先達の苦闘の物語である。

錦織出身の私たち兄弟五人、根本文子、佐藤正弥（高11回生）、梅津（佐藤）純子（高15回生）、佐藤明子（高18回生）、船坂朗子は全員佐沼高校の卒業生であり、父「佐藤弥市」は旧制佐沼中学を卒業している。弥市は明治42年カナダ・ニューウエストミンスター市で母「うめの」父「喜蔵」の長男として生まれた。「うめの」はこの物語の主人公、佐藤惣右衛門の妹であり、父喜蔵は清水の春日家から婿養子に来ていた。当時の「うめの」夫婦はカナダの大河フレーザー河の中州で惣右衛門と共に暮らしていた。

登米市周辺の皆様は、昭和54年（1979）のベストセラー新田次郎の『密航船水安丸』（講談社）をご記憶、または体験されたご家族の末裔の方も多々と思われる。我が家の伝承によると錦織の

佐藤惣右衛門はこの密航船に先行して単身、カナダに渡り、ドイツ人農家の物置小屋に住み込み、二年目によくやく一日ドルの給金を得て細々と郷里に送金していた。ある日ドッグサーモンとしてフレーザー河に捨てられていた白鮭の情報を得て、親類関係でもある米川村の及川甚三郎に伝えたことで密航船は実行された、と聞き及んでいる。甚三郎と惣右衛門はその後フレーザー河の中州に隣り合う、及川島、佐藤島に住み、協力して郷里のコミュニティーを作り、鮭漁とその加工輸出に成功し、疲弊した故郷を救援したのである。

錦織の我が家には沢山のカナダ写真が保存されていた。戦後の貧しい暮らしの中で、そこに写る美しい白いロングドレスの異文化に憧れ、苦しい時も悲しい時もひそかにこのアルバムを開いてはいつか外国に行きたいと夢見ていた。後に私が海外専門のツアーコンダクターとなり、世界108か国を訪問したのも、幼少期のカナダ写真が影響している。1999年の「東和町・青少年海外派遣団」のカナダ訪問には、現錦織公民館長猪股良雄氏のご尽力により添乗員として同行できたことは忘れえぬ思い出である。惣右衛門は回顧録で米川の「及甚」を深く尊敬している。また鱒淵の華足寺に

ある「及川甚三郎顕彰碑」には、筆頭発起人としてすでに開戦の混乱の中で亡くなった兄の惣四郎の次に自分の名をあげているので、帰国することなく異国で無念の死を遂げた兄と二人分の寄付金を負担していることが見て取れる。自分を語らない「陰徳の人」である惣右衛門であるが、唯一「加奈陀同胞発展大鏡付録」（大正11年発行）の「成功家五人男」にその事業の片鱗を伺うことが出来る。

ニューウエストミンスター方面に覇を称ふる佐藤惣右衛門君は（中略）ミルサイドの製材会社に人夫監督を勤め、将来の一着歩を築く。また土地四十二英加（エーカー）を購入して塩鮭製造所設立。併せて生魚販売を開始す。別に雑貨の輸入を営み、日もこれ足らざるの状ありき。而して製材会社の事業は知己渡辺宇兵衛氏に移す。（中略）佐藤氏が一人貪らず、己達せんと欲せば、先ず人を達せしむの古言を実行せるものと謂うべし。明治四十四年（1911）に至り、ライオン島七英加を十二年契約で租借し、漁業の傍ら菜園業を経営す。君は晩市（バンクーバー市）カドバ街に於ける土地家屋を始めとして、各所に土地を所有。漁船、漁網、株券等を合したる総合財産は四万弗の巨額に達すべし。毎年の収入三万弗に

近しと言え、総支出を差し引くも尚数千弗の純利益を揚ぐべし。尚別には永氏と共同、大規模を以て晩市にシズコ（筋子）製造を開始し内地に輸送して利する所あり。

（表記は○に補足、ほぼ原文ママ）

惣右衛門がこのようにバンクーバー市に多くの土地を持ち、多くの会社を経営できたのは、農場住み込みで働いていた頃から、少しづつ安い土地を買っていたからである。稲作地帯の錦織では土地を継ぐのは長男であるから、次男の惣右衛門にとって、土地は憧れであったろう。それが思いもかけないバンクーバー港の開発計画で、ある日突然何十倍にも跳ね上がったという。惣右衛門は、自分が英字新聞が読めたなら、売り急ぐことは無かったと、その後の値上がりを残念がって郷里に伝えている。

しかし彼はその幸運を一人貪らず、ここに書かれているように「己達せんと欲せば、先ず人を達せしむ」の古い言葉を実行する人であった。東北の寒村から父に百円（現在では二百万くらいか？）をもらい、宇都宮まで歩き、横浜港から多分航海船の雑役としてカナダに渡ったと推測されている。やがて彼は若くしてカナダ国籍を取得するまでになる。成功者として人のため郷里のため、活躍して

いた惣右衛門に、突然不幸が訪れるのである。

昭和16年12月、日本の真珠湾攻撃により太平洋戦争が始まると、直ちに敵国人とし土地や家屋を含む全ての財産、漁船や車の動産も強制的に没収され、海岸から160キロ以北の寒冷の地に強制移動を余儀なくされた。

長姉文子の記憶では戦後しばらくして錦織の貧しい我が家に夢のような子供服やレーズンが届いたが、全財産を無くした当時の惣右衛門がホテルの雑役をしながら協会のバザーの品物を送ってくれていたと言う。

平成18年(2006)10月12日、「密航船水安丸百周年記念式」がカナダのリッチモンドで挙行された。式後のレセプションでこの日私たちは惣右衛門の兄と妹である惣四郎、うめの、の孫として、カナダと日本で育った肉親同士が始めて

一つのテーブルを囲んだ。夢のような出会いであった。

しかしまたその席で衝撃的な事実を知った。目の前に座っている、また従弟の「サトウアキオ」さんが、太平洋戦争中カナダ軍の兵士として従軍したと言っている。実は私達の父「弥市」も、この大戦の末期「戦艦長門」に乗船しレイテ沖海戦に参加している。結果的に肉親

同士が敵味方になっていた厳しい現実には私達は言葉もなく彼の話を聞いたのだ。この席では更に、長年自らの出自を探し続けていた惣右衛門兄弟の長姉で米谷に嫁いだ「やす」の孫であるルースさんとの劇的な出会いもあった。

私達兄弟は力を合わせ、祖父が持ち帰り父が保存したカナダの写真や資料を「先人の歴史」として故郷の未来に伝えたいと思い出版した。  
執筆協力 根本文子(旧姓佐藤9回生)

### 令和3年度収支報告書

令和3年1月1日～  
令和3年12月31日(単位:円)

収入の部	
科目	金額
前年度繰越金	496,661
年会費収入	246,000
雑収入	3
収入の部合計	742,664

支出の部	
科目	金額
事務局費	62,406
会報作成封入	112,200
年会費手数料	42,291
翌年度繰越金	525,767
支出の部合計	742,664

会計担当 坂入 茂(高17回生)  
佐藤 清寿(高19回生)

上記収支報告書について、厳正に監査した結果、適正なる処理による報告書と確認いたしましたことをご報告いたします。

監事 佐藤 榮記(高15回生)  
菅原 洋子(高20回生)

### ご案内

#### 文字絵特別展

緑風21号、人物紹介で掲載した山内ジョージ氏(高13回生)の特別展が仙台で10月開催予定です。在仙佐高会会員はじめ親戚知人にご案内いただければ幸いです。

問い合わせ先・仙台文学館

〒981-0902

仙台市青葉区北根2-7-1

電話 022-271-3020

事務局からのお願い

#### 年会費納入・継続のお願い

#### 会員増強・年会費について

ご承知の通りコロナ禍の影響で会活動が2年間で中止となりました。そんな中会員の高齢化が進み、70歳以上が70%を占める厳しい状況です。

コロナ禍の中でコミュニケーション力を高める方法はスマホ、パソコン、などのDX機器の利用があります。スマホのラインは会話もでき、一斉に写真の送信もできるなど有力な通信機器です。是非、通信機器を使いこなしていただき、会員

増強と年会費千円納入にご協力ください。年会費の振り込みは郵便貯金から振り込むことで手数料がお安くなります。

#### 編集後記

▲表紙の総会写真、今年こそは総会開催との思いが込められています。今後継続できることを願っています。

▲ロシアによるウクライナ侵攻。犠牲者はいつもと子どもや市民。毎日悲惨な報道に胸が締め付けられる思いです。コロナも戦争も飛んでけ。

▲緑風表紙を古里の懐かしい風景写真で飾られた鈴木修様(高7回生)は去る6月に永眠されました。心からご冥福をお祈りいたします。

▲今号は根本文子様(高9回生)、船坂朗子様(20回生)よりご寄稿いただきました。皆さんからの投稿をお待ちしています。事務局までお寄せ下さい。

#### 在京佐高会事務局

〒102-0007

東京都千代田区飯田橋4-10-1

セントラルプラザ703号

事務局長 武澤 忠臣

電話 03-3267-8793

FAX 03-3267-0796